教育随想

矯正の使命と動機付け



岡崎医療刑務所長
安部　明弘　氏

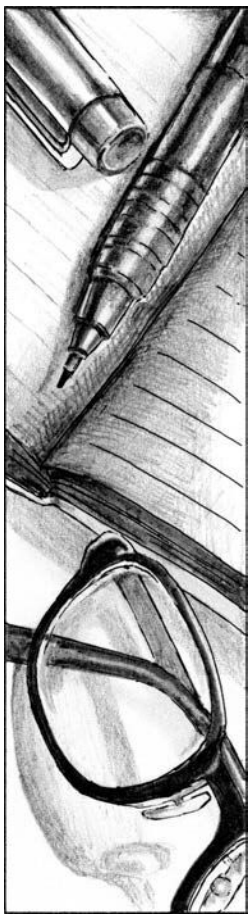
岡崎医療刑務所は精神障害を有する男子受刑者を収容し治療処遇する施設で、医療・福祉スタッフと刑務官が連携して教育指導や社会復帰支援を行っています。最近は、当所管理栄養士の活躍で、「ムショラン三ツ星」の原作の舞台として知名度が上がり、食育を通じた改善更生を目指す施設としても知られています。

昨年６月、刑法が改正され「懲役刑」と「禁錮刑」を一本化した「拘禁刑」が施行され、矯正行政は大きな転換期を迎えました。懲役刑では懲らしめとしての「応報刑」だったのに対し、拘禁刑では、改善更生のための「教育刑」という性格が強くなり、作業は受刑者の改善更生や円滑な社会復帰のために必要な指導の一つという位置付けとなりました。当所は、様々な特性をもつ受刑者を収容しているため、個々の特性に応じた教育支援を推進しています。

昨年矯正局は、拘禁刑の導入に伴い矯正職員の意識改革が必要であるとの思いから、「矯正行政のミッション・ビジョン・バリュー」を定め、矯正の使命として「更生を信じる力で、もっと安全で豊かな社会を」を掲げました。これは職員への動機付けとも言えますが、こうした目標をどう実現していくのか、そのためには、いかに受刑者に改善更生への動機付けをするか、そこからがスタートではないかと思います。教育における動機付けの重要性は言うまでもありませんが、将来の目標を定め、そのためにはどのような努力が必要かを自発的に考えられるようにしていくプロセスが大切です。

当所では、ビジョンとして、「人に寄り添い、心で心を治療するスペシャリスト」を定めました。こうありたいという将来像を見据え、安全で豊かな社会を目指して心を一つにしていきたいと思います。

（あべ　あきひろ）





令和８年11月１日
11月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想…… 1
岡崎医療刑務所長
安部　明弘 氏
この人に聞く…… 2
スイミングクラブ取締役
大森　玲弥 氏
羅針盤…… 2
英語科指導員　渡邉　康平
ふれあい…… 3
羽根小学校
教諭　中根　好乃
特　集…… 4
岩津松平氏600年の歴史
お知らせ…… 6
フォト・ヒストリー… 8
矢作北小の運動場
（明治40年ごろ）
この本を…… 8



命を守り、対話で育む水泳指導

スイミングクラブ取締役
大森　玲弥　氏

創業者である祖父、大森國臣氏の「水泳技術の上達を目指し、教育者として指導にあたる」という理念を継承し、障がいのある子供の水泳指導を重視する、大森玲弥さんに話を伺った。

―クラブの代表として、大森さんが大切にしていることは何ですか―

一つ目は「コーチ心得」です。ここには、祖父の代から大切にしている指導者としての在り方や規律、身だしなみ、言葉遣いなどの細かい内容まで示されており、今でもクラブの指導者と共有しています。私自身も常に意識し、「私は今、子供から『先生』と呼ばれるのに恥じない生き方ができているだろうか」「ユーモアを忘れずに子供と接し、安心感を与えられているだろうか」と自分を顧みる指針にしています。

二つ目は「水泳指導は防災教育である」という捉えです。私は、水泳を水難事故防止のための防災教育と考えています。水難事故発生時に自力で避難することが難しいのは、特に障がいがある方や子供です。そのため、クラブでは障がいのある方の水泳指導と、着衣泳を大切にしています。誰一人取り残さないために、障がいのある方や子供が水泳を学ぶ機会を保障する必要があります。障がいのある子供の水泳指導については、カリキュラムをつくり、広く公開することで他の事業者にも生かしてもらえる取組を始めています。

―水泳に関わる企業として果たせる役割をどのように考えていますか―

一つは水泳指導に関する現場の情報を広く伝えていくことです。例えば、水泳の授業の民間委託が進んでいます。学校プールの老朽化や少子化、過疎化などの課題もあります。しかし、すべての小学校の水泳指導を現存の民間クラブで請け負うことは現実的ではありません。その中で、学校と協力し、どうすれば、すべての子供に持続可能な水泳指導の場を確保できるかを考えています。そして、行政や関係機関に熱意と信念をもって現状の説明とアイデアの提案をしています。水泳指導は子供の命を守ることにつながる不可欠なものです。現場の情報を伝えていくことによって、子供の水泳に関わる環境をよりよいものに更新していくことができると信じています。

もう一つは、プロの指導者の育成です。保護者と離れられず泣きじゃくる三歳の子供や、水に強い恐怖心をもつ障がいのある子供、思春期にプールに入りたくなくなってしまった子供など、様々な子供と接します。指導者が「あなたの命を守ることにつながるよ」と誠実に話をすると、真剣に聞き、態度や言葉で思いを伝えてくれることもあります。練習メニューの意図を丁寧に説明し、対話を通して子供の泳力を伸ばすプロの指導者を育成することも、私たちが果たすべき役割だと思っています。

―今後、水泳の指導者に求められることをどのように考えていますか―

指導者主導ではなく指導する相手と伴走する姿勢で指導にあたることです。例えば、水泳の目的を指導者が決めずに、子供やスイマーが自分で決める環境作りをします。それが水泳を生涯スポーツにすることにつながります。アスリートとしての競泳、マタニティやベビースイミング、マスターズの大会、リハビリやリラクゼーションなど、水泳との関わり方は多岐にわたります。だからこそ、容器に合わせて形を変える水のように、指導者が指導する相手と向き合い、そのニーズに沿って柔軟に対応する努力を怠らないことが大切だと考えます。対話を通して水泳との関わり方や目的を自身に決めていただく、そして対話をしながら伴走するという姿勢が、これからの指導者に求められる在り方だと考えています。



氏名　おおもり　れみ
生年月日　平成六年四月十一日



伝え合う力は、伝え合う中で育まれる

英語科指導員　**渡邉　康平**

英語教育では、外国語を通じて他者と関わり、相手を理解するとともに、自分の考えを形成・再構築しながら、適切にコミュニケーションを図る力の育成が求められている。

小学校のA教諭は、言語活動を自然な会話に近づけるために、リアクションについて学ぶ授業を実施した。

導入では、A教諭の「How are you?」という問いかけに対して、ALTが、「I'm happy.」と「I have a headache.」の二通りの回答をし、それぞれに対するA教諭の反応を実演して見せた。A教諭は、ALTのいずれの回答に対しても「I see.」と応じ、子供たちにどのように感じたかを問いかけた。すると、子供たちは、自らの経験と結び付けて「頭が痛い人には心配する声掛けをする」と考え、相手の状況に応じてリアクションを変える必要があること



「なんか」もなんか悪くない

羽根小学校
教諭　中根　好乃

四月、二年生に進級したばかりのAさんは、友達と過ごすことが大好きな一方で、友達と関わる中で思いが行き違うことがあった。私が「何があったの」と尋ねると、しばらく黙った後、「なんか楽しそうだなと思ってやっちゃった」と答えた。「なんか」という言葉が気になった私は、重ねて理由を尋ねた。Aさんからいつもの笑顔が消え、返事は返ってこなかった。「うまく言葉にできなくてもいいよ」と声を掛け、Aさんの言葉を待った。しばらくすると、「分かんない」とぽつりとつぶやいた。Aさんの言葉にならない思いは「なんか」に込められているのだろう。その思いを言葉にできる力を育てたいと感じた。

五月のある日の国語の授業で、「なんか変になっちゃう」と、いらいらした様子でAさんが声を上げた。「書」の文字がうまく書けず困っているようだった。そこで、「漢字はね、書き順を守って書くと、上手に書けるんだよ」と伝えた。「ふうん」と、気のない返事をしたが、「一緒に空書きしてみよう」と声掛けすると、気のない返事とは対照的に、空書きをする手は大きく動いた。そのあとノートを見ると、少し形の整った「書」が書けていた。「書き順をちゃんと守れたね。形も整ってきているよ」と褒めると、Aさんは、「なんかうまく書けた」と、何でもないように返事をした。だが、口元はほころんでおり、私も自然と笑みがこぼれた。Aさんの「なんか」は、自分の気持ちを表すための、おまじないの言葉のように思えた。

六月、国語科で「名前を見てちょうだい」の単元が始まった。えっちゃんが、大男から帽子を取り戻そうとする気持ちを考える場面で、Aさんの鉛筆が止まった。私はAさんの隣にそっとしゃがみ込み、「難しいかな」と尋ねると、Aさんは小さくうなずいた。「ヒントは、本文の言葉にあるよ」と伝えると、Aさんは「おこっている」の言葉を指さした。「見つけられたね。何で怒っているのだろう」と問い返すと、Aさんは、もう一度本文に目を落とした。答えは返ってこなかったが、「分かんない」と答えることは、もうなかった。

「えっちゃんになりきって『あたしのぼうしをかえしなさい』と言ってみようか」と提案すると、Aさんは、腕をまっすぐに伸ばして右足を踏み出し、大声を出して、全身で表現していた。私が「えっちゃんの気持ちが伝わってきたよ」と言うと、Aさんは、満足したように笑った。

単元の振り返り用紙には、「お母さんからもらった大切な帽子だから、取り返したくて怒ったんだ」と書き、自ら私のもとへと持ってきた。「自分の考えを言葉で説明できたね」と伝えると、Aさんは振り返り用紙を見つめながら少し照れたように笑い、「最近、国語がなんか楽しくなってきた」と答えた。相変わらず「なんか」をつけて話すAさん。だが、その言葉には思いを言葉で表そうとする成長が感じられた。「なんか」もなんか悪くない、私にはそう思えた。



に気付いた。

その後、相手の状況に応じた複数のリアクションを取り上げて練習し、実践としての言語活動に移行した。質問を受ける子供は複数の感情を表すピクチャーカードを持ち、それを提示しながら会話を始めるように設定した。カードによって相手の心情や状況が明確になり、その場にふさわしいリアクションを取りながら会話を進める様子が見られた。

中学校のB教諭は、英語を使用する場面や状況を設定し、新出文型を用いて会話劇を作る活動を行った。

当初、子供たちは、「will」と「be going to」の使い分けについての理解が曖昧であった。しかし、場面や状況に合った現実的な会話を考える中で、すでに決まっていた予定には「be going to」を、その場で決めたことには「will」を用いることを理解し、表現できるようになった。同じような意味をもつ単語や文型でも、場面や状況によって使い分けることを、体験的に学んだのである。

英語は言語であり、他者と理解し合うための手段である。言葉の意味や働きを、コミュニケーションの中で学び、コミュニケーションの中で捉え直す。そうした学びを通して、言語の本質に迫る感性を磨く授業が展開されることを期待する。

岩津松平氏 600年の歴史

～地域の歴史や文化を未来の子供たちへ～



▲運動会「風雲！　岩津城」松平軍と武田軍の戦いを模した騎馬戦の様子（岩津小）

徳川家の前身である松平氏が、松平郷（豊田市松平町）から岩津へ進出して六〇〇年の節目を迎える。岩津進出は、松平氏発展の重要な転機であった。矢作川流域の交通の要衝であった岩津を拠点とすることで、松平氏は勢力を広げ、三河一帯への進出の足がかりを築いていった。

六〇〇年という節目は、昭和四十八年の若一（にゃくいち）神社社殿の解体の際に発見された棟札（むなふだ）（※）に由来する。その棟札には、一四二六年に松平氏二代当主泰親が若一神社を建立したことが記されており、この年が岩津進出起点と考えられている。その後、岩津は松平氏の重要な拠点となり、歴代当主によって城や神社が整備され、地域との結び付きが深められていった。なかでも三代当主・信光は、松平氏の基盤固めに大きな役割を担った人物として知られる。岩津には、現在も信光ゆかりの史跡や寺社が数多く現存する。今回は、その史跡や寺社を手がかりに、松平氏の功績を振り返る。

今年は節目の年として、十一月三日に、岩津城址の整備や歴史的価値の発信を目的とする「『岩津松平氏輝きの六〇〇年』推進懇話会」による「信光フェスタ」が開催される。地域ではＰＲ活動やウォークラリーが、岩津小・岩津中では歴史学習や地域活動が行われている。こうした取組は、子供たちが郷土の歴史や文化への理解を深め、その価値を再認識する機会となり、「地域とともにある学校づくり」につながっている。

※　建物を建てたり、修理したりした記録を残すために棟木や屋根裏に取り付ける木の札のこと。

松平親氏から徳川家康までの家系図

初代 松平 親氏（ちかうじ）
↓
二代 松平 泰親（やすちか）
↓
三代 松平 信光（のぶみつ）
↓
四代 松平 親忠（ちかただ）
↓
五代 松平 長親（ながちか）
↓
六代 松平 信忠（のぶただ）
↓
七代 松平 清康（きよやす）
↓
八代 松平 広忠（ひろただ）
↓
九代 徳川 家康（いえやす）

※1566年　松平家康が「徳川」に改姓し、徳川家を名乗る



▲「信光フェスタ」公式キャラクター「信光くん」

松平氏三代　**松平 信光**（まつだいら のぶみつ）

室町時代中期から後期にかけて活躍した武将で、岩津城を拠点に松平氏の勢力を伸ばした有力な当主である。
徳川家康の先祖としても知られている。

【主な功績】
・1465年に額田郡一揆の鎮圧に功績を挙げ、幕府から領地を与えられた。
・安祥城や岡崎城を勢力圏に取り込み、西三河の支配基盤を築いた。
・多くの子を各地に配置し、安祥松平氏・大草松平氏・深溝松平氏など、後の「十八松平」の基礎を作った。

岩津町にある松平信光にまつわる歴史的建造物



▲若一神社
松平氏二代・泰親が1426年に建立した若一王子霊社（現・若一神社）。
発見された棟札は、松平氏が松平郷から岩津への進出600年を示す貴重な証となっている。



▲円福寺（妙心寺）
元は京都にあった浄土宗西山深草派の大本山。明治14年に、当地にあった妙心寺との転地交換によって移された。妙心寺は、松平氏三代・信光が、妻と子・親則の菩提を弔うために建立した寺院である。



▲真浄院
円福寺総門前の参道脇に建つ真浄院。松平氏三代・信光の妻の菩提寺であり、「真浄院」はその妻の名に由来する。
円福寺を開山した教然良頓上人の位牌が安置されている。



▲信光明寺と松平氏初代から三代目までの墓
松平氏三代・信光が1451年に、祖父・親氏と父・泰親の菩提を弔うために建立した寺院。境内には、松平親氏・泰親・信光の三代にわたる墓がある。





▲岩津城址
松平氏二代・泰親から三代・信光の時代に築かれたとされる岩津城の城跡。

「岩津松平氏輝きの600年」推進懇話会の取組や地元の学校とのつながり



▲講話「岩津松平氏輝きの600年」（岩津小）



▲歌詞に郷土の名所が織り込まれた「岩津の舞」（岩津中）



▲信光の紙芝居を見ている様子（岩津小）



▲岩津城址の清掃活動の様子（岩津中）



▲信光フェスタ宣伝のための練り歩きの様子

講話を聞いて、岩津地区に関する歴史について知ることができました。これからは、わたしたちも岩津のよさや伝統を大切に受け継いでいきたいです。
（岩津小６年生児童）

「岩津の舞」は昨年の12月から取り組んできました。地域の方や先輩方の思いがたくさんつまった「舞」なので、しっかりと向き合って舞いました。
（岩津中３年生生徒）



●教育最新情報

◆令和八年度岡崎市教育研究論文

令和八年度岡崎市教育研究論文を次のとおり募集します。

【趣旨】

岡崎市立小・中学校教職員の日頃の教育実践及び教育研究の成果を論文としてまとめ、教職員の資質向上及び学校教育の健全な発展を図るとともに、その努力を顕彰する。

【部門】

①第一部門：個人研究の部
②第二部門：共同研究の部

【論文の体裁】

①字数
一八二〇〇字以内（図表、写真等の資料は本文の範囲内に入れる）
②用紙・様式
・A4用紙　40字×35行
・13枚以内
（余白天地左右20ミリ以上、片面印刷）
・文字は12ポイント以上
（余白への資料添付は禁止）

【留意事項】

①応募論文は、刊行物に未発表のものとする。（継続実践研究の場合は可）
②添付資料は、判読しにくいほど縮小しない。
③表紙には、主題・副題・所属・氏名・ラベルのみとし、写真やイラストは掲載しない。表紙の紙の色は白色のみ。
④本文は彩色しない。本文の背景を色付きにしない。
⑤個人に関する情報を論文中に記載する場合には、「児童A」等と表記し、特定の個人が識別されないようにする。写真を資料として使用する場合は、保護者の同意を得る。
⑥生成AI利用の注意事項
・論文内に、生成AIの出力内容を用いる場合は、引用として必ず明記する。
・生成AIの出力内容の正確性、適法性及び倫理性は、論文作成者が責任をもつ。

【提出期間】

令和九年一月五日（火）、六日（水）
午前九時から午後五時まで

【提出先】

総合学習センター
（教育研究所三階事務室）

●現職研修委員会の活動

◆第七十三回岡崎市小中学校理科作品展

【趣旨】

市内小中学校の優秀な自由研究を展示し、その努力を称えるとともに、理科研究等に対する関心を高める。

【日時】

令和八年十一月七日（土）
九時～十六時
十一月八日（日）
十時～十四時

【会場】

岡崎市総合学習センター
多目的ホール・小ホール

【テーマ】

今、ここに集う　岡崎の未来の科学者たち！

【内容】

①学校代表作品
研究・標本・製作物
②特別コーナー
○科学体験コーナー
・自然科学研究機構研究員によるコーナー
（生理学研究所、分子科学研究所、基礎生物学研究所）
・企業等によるコーナーやサイエンスショー
（東海光学、中部電力、岡崎東公園、岡崎葵メダカ、元市内理科教員）
・市内高校によるコーナーやサイエンスショー
○木村資生科学賞（第二十八回）、学生科学賞コーナー
○今年度の日本学生科学賞応募作品の展示コーナー

《理科部》

◆第五十三回岡崎市小中学校技術・家庭科作品展

【趣旨】

児童生徒にものづくりの楽しさや喜びを伝え、相互に学び合う場とする。また、家庭科、技術・家庭科の学習について、広く市民に紹介する場とする。

【日時】

令和八年十一月七日（土）
九時～十六時
十一月八日（日）
十時～十四時

【会場】

岡崎市総合学習センター
体育室

【テーマ】

「技術」「家庭」はいつも
私たちのそばに
～思いをかたちに～

【内容】

①市内全小学校家庭科で製作した作品展示
②市内全中学校技術・家庭科の授業や部活動で製作した作品展示
③愛教大附属特別支援学校の作品展示
④地域企業との連携展示コーナー
（株式会社鈴六、ジャノメミシン）

《技術・家庭部》

◆第六十三回造形おかざきっ子展

【趣旨】

市内小・中学校（含附属3校）の子供たち全員の作品を

展示・発表する場をつくり、造形表現の喜びを味わわせるとともに、表現力伸長の一助とする。

【日時】
令和八年十一月七日(土)
九時～十六時
十一月八日(日)
九時～十六時

※予備日なし。中止の場合は、各校での分散開催とする。

【会場】
岡崎市美術博物館の野外一帯（岡崎中央総合公園内）

【テーマ】
ようこそ！ワクワクみらいパークへ

【内容】
①展示作品：授業から生まれた全ての子供の作品、約三二〇〇〇点を展示する。
②開会式を十一月七日(土)九時から会場内野外ステージで行う。

※雨天時は、岡崎市美術博物館内セミナールームで行う。

《図工・美術部》

◆第五十四回岡崎のハーモニー

【趣旨】
・音楽で思いを伝えることを通して、音楽の力を実感するとともに、生涯にわたり音楽を愛する心豊かな子供を育てる。
・音楽会の企画、運営、演奏指導等を教員研修の場とし、力量向上の一助とする。

【日時】
令和八年十一月七日(土)
開演　十三時
終演　十四時三十分(予定)

【会場】
岡崎市民会館　あおいホール

【テーマ】
音楽でつむぐ　彩りあふれる世界

【今年度の特色】
テーマ「音楽でつむぐ　彩りあふれる世界」を表現するために、合唱の4つのブロックは、「はじまりの旋律」「一人ひとりの色」「重なりあう響き」「心に灯す光」を小テーマにして選曲・演奏をする。

●表　彰

◆第47回愛知県ジュニアオリンピック陸上競技大会
第57回ＪＯＣジュニアオリンピックＵ16県代表選考会
○女子の部
・三段跳び
1位　甲山中　近藤　彩
・走高跳
3位　翔南中　野村　柚衣

◆第79回中部合唱コンクール
○中学生　同声合唱の部
銅賞
岡崎イースト Ryukai JH

◆第93回ＮＨＫ全国音楽コンクール　東海北陸ブロックコンクール
○小学校の部
銀賞　三島小



◆第30回東海小学生バンドフェスティバル
○ステージ部門
銅賞　竜美丘小

◆令和8年度　ＣＢＣこども音楽コンクール
○中学生　合唱部門
・女声三部合唱
優秀賞　岡崎ＷＥＳＴ
・女声四部合唱
優秀賞　竜海中
○中学生　重唱部門
・女声三重唱
優秀賞　竜海中Ａ
○小学生　合唱部門
・二部合唱
優秀賞　六ツ美中部小
・三部合唱
優秀賞　三島小
優秀賞　山中小



教職員の相談窓口

【対象】全教職員　【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと　等

相談窓口	電話番号	相談受付日時	あいちこころのサポート相談(SNS)
岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日　12:00 ～ 19:00 土曜日　12:00 ～ 16:30	LINE 友だち追加・ID検索 @aichi_soudan
あいちこころのサポート相談(SNS)	右QRコード	月曜日～土曜日　20:00 ～ 24:00 日曜日 20:00 ～ 翌月曜日　8:00	
愛知県総合教育センター教育相談	0564-83-9743	月曜日～金曜日　9:00 ～ 17:00	
あいちこころのホットライン365	052-951-2881	年中無休　9:00 ～ 20:30	
愛知いのちの電話	052-931-4343	年中無休　24時間	



矢作北小の運動場
（明治40年ごろ）

写真提供：矢作北小学校



写真は、明治四十年ごろに現在の矢作北小の運動場で行われた、運動会の練習風景である。袴姿の女生徒が、体を大きく使って、美しい踊りの練習をしている。

この運動場は、明治三十五年七月に新校舎が建設された際に造られた。戦時中はサツマイモや大豆の畑として耕され、戦後は土俵が作られたり、野球部の練習場所として使われたりした。その後も、遊具が設置されるなど、学びの場に加えて、多くの子供たちが集う遊びの場となった。

長い歴史の中で形を変えてきたものは多い。運動場もその一つだ。しかし、そこで子供たちが学び、遊び、成長してきたことは今も昔も変わることはない。

・カット　美川中　嶋田佑子



＊14歳、字を書けない私が「書く」喜びを手にするまで　　朝野　幸一
新潮社　　￥1,700

心に残った一文

当たり前ができないことによって、どれだけの精神的なプレッシャーがかかるとお思いだろうか。

「『普通』という領域から出ることができたことにホッとした」と語る著者。

私たち教師は、周りと同じようにできない子供を「普通ではない」と決めつけ、「普通」を押し付けていないだろうか。

学校が配慮に対してオープンであるためには、私たちが子供理解を深め、子供目線で支援していくことが大切である。

「普通においしい」「普通に嫌だ」。私たちに染み付いている「普通」を、見直す必要がある。そして、「多様性の包摂」を見据え、誰もが過ごしやすい社会や学校をつくっていかなければならない。

＊教師の優先順位　　土居　正博
明治図書出版　　￥2,060

＊「余白」を生み出す学校マネジメント　　仲渡　隆真
明治図書出版　　￥2,000

＊ムンクは何を叫んでいるのか　　井上　響
サンマーク出版　　￥1,600

六名小学校　　青木　貴之

ホッと霜月

ほんのわずかな気持ちの変化や、思いを言語化することは難しい。特に子供は自分の気持ちをうまく表現できず「なんか」という言葉でまとめてしまうことが多い。子供の心の奥にある意図や思いに寄り添い、自分の言葉で語り、言語化することのできる子供を増やしたい。そのためにも、教師自身が言葉を大切にしていきたい。

時は今から約六〇〇年前。岩津の地に松平氏が進出し、後の徳川家康公へとつながる歴史の礎が築かれた。岩津の町では、今も城跡や寺社、石碑などの文化財がその歴史を伝え、当時の人々の思いや文化の息吹を感じさせる。

受け継がれてきた歴史と文化を地域の誇りとして守り、その価値と魅力を未来へつないでいく。

追悼慰霊式が七十年以上続く水難事故がある。修学旅行中に犠牲となった命を思い、大森さんは涙を浮かべる。「水泳指導に携わる私たちには、使命感と指導力が必要不可欠です」そう語る大森さんの姿からは、教育者としての強い覚悟が伝わる。「コーチ心得」は教師に通ずるものが多い。教師としての自らの在り方を顧みる。



▲修学旅行（竜美丘小）